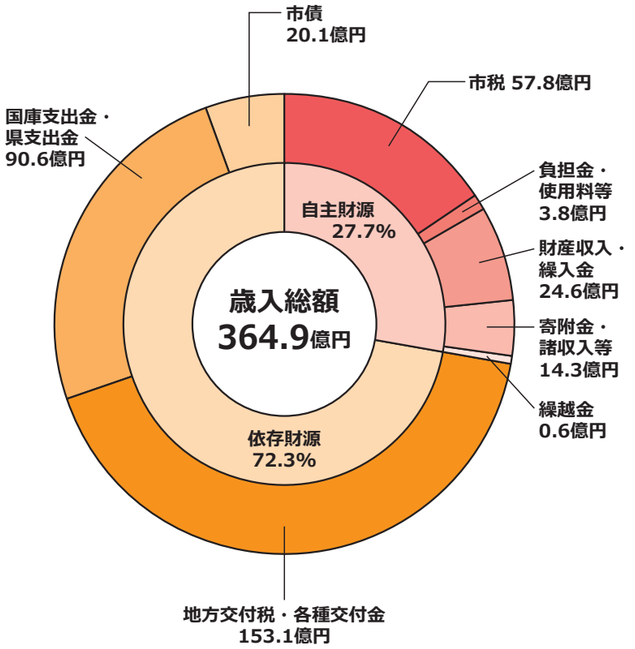
五所川原市の決算

「財政」や「決算」という言葉を聞くと、「なんとなく難しそう…」と感じませんか？
そんな難しそうな決算を、簡潔にご説明します！



歳入

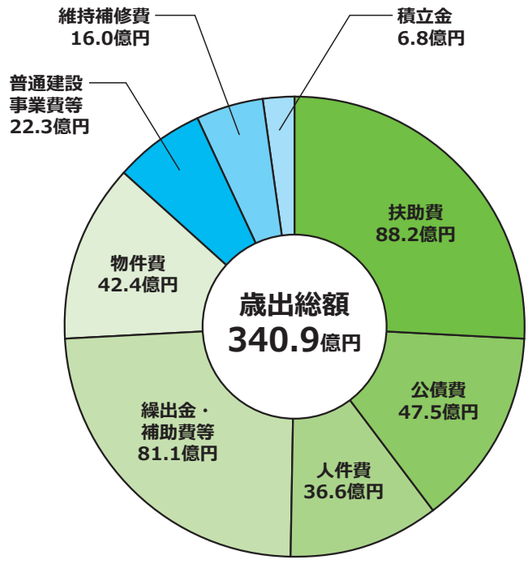
歳入は、市税などの「自主財源」と地方交付税や交付金などの「依存財源」に分けられます。五所川原市では、使い道が広い自主財源が少なく、依存財源に頼らざるを得ない状況です。

令和７年度は、市税が前年度より4.2億円増額しましたが、地方交付税や県支出金による収入の増加が大きかったことで、依存財源の割合が前年度から0.4％増加しました。

歳出

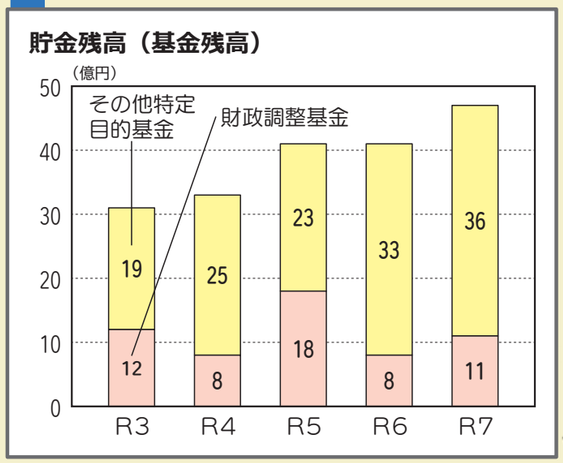
歳出のうち扶助費、公債費、人件費の３つが義務的経費と呼ばれ、これらは簡単には削減することができない経費です。

令和７年度は、義務的経費が50.5％を占めています。前年度から人件費が２億円、立佞武多の館大規模改修事業などを含む普通建設事業費が6.5億円増額となったことなどにより、歳出総額が前年度より９億円増額となりました。



＊数値は令和７年度普通会計決算額
＊黒字決算額（約22.8億円）は歳入歳出の差額から翌年度に使うお金を差し引いた金額

Q 市の貯金はどれくらいあるの？（R3～R7）



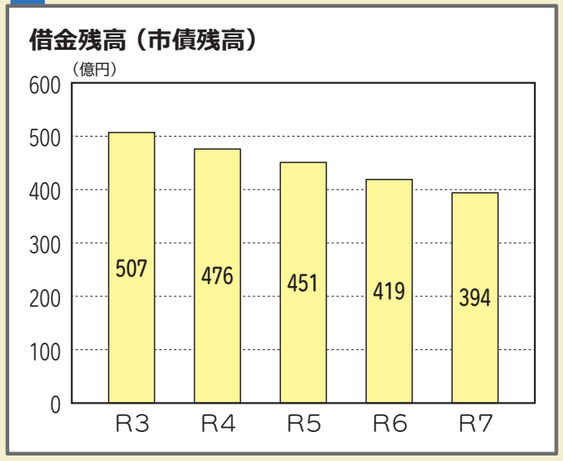
A 令和７年度末では、基金（市の貯金）残高は約47億円になりました。

主な基金の使い道

○大雪に対応するための除排雪経費
○突発的な災害発生に伴う災害復旧費

基金は全体的に増加傾向だけれども、災害対応など緊急時に使える財政調整基金は、特に冬の降雪状況などに左右されていて、最近は増減を繰り返しているよ。

Q 市の借金はどれくらいあるの？（R3～R7）



A 令和７年度末では、市債（市の借金）残高は約394億円となりました。

主な市債の使い道

○公共施設の建設、改修工事
○道路の改良や橋の架け替え工事

公共施設を建てるときなどに市債を活用して、将来にわたって少しずつ返済することで、今の市民だけでなく、未来の市民とも公平に負担を分かち合っているよ。
市債は着実に償還を進めていて、令和７年度は前年度から市債残高が25億円減少したよ。

Q 総合的な財政状況は？

A

市債残高は400億円を下回り、ピークの時より150億円以上少なくなっているほか、基金残高も増加しています。
しかし、物価高騰や社会保障経費の増加は今後も続くと見込まれるため、引き続き新たな財源確保や事業の効率化を図り、持続可能な財政運営を行います。

詳細は、市ホームページを確認してね！